

2014年(平成26年)3月1日 土曜日

大館・釈迦内小の卒業制作陶器

「ひまわり焼き」完成

上薬に油の搾りかす

地域と連携してヒマワリ栽培に取り組んでいる大館市の釈迦内小学校(五十嵐経校長)で、6年生49人が卒業記念として、ひまわり油の搾りかすを上薬に使ったオリジナル陶器「ひまわり焼き」を作った。大館焼窯元の芳賀陶貞さん(67)が協力。28日、授業参観日に合わせ、同校で完成品をお披露目した。



同校は収穫したヒマワリの種から食用油をつくって販売し、収益を児童の教育費に充てている。本年度は1・5トの種を収穫。工程で出る油の搾りかすは毎年1ト前後に上

陶器作りを提案。依頼を受けた芳賀さんが搾りかすを使った上薬を開発した。

2月7日、芳賀さんが同校で陶芸教室を開き、6年生が茶わんや皿、カップなど「ひまわり焼き」を手にする釈迦内小の6年生たち。中央は共同制作のレリーフ

どに成形し、搾りかすで作った上薬を塗った。作品は芳賀さんが持ち帰り、自前の窯で焼いて同校に届けた。完成したひまわり焼きは淡いベージュ色で「他の身近な植物から作った上薬で

は出ない独特の色」と芳賀さん。ヒマワリの形の陶板を貼り付けた縦1.5尺、横1・8尺のレリーフも共同制作した。マグカップを作った山口誠矢君(12)は「思った以上によ

くできた。つるつるして触り心地がいい」と満足げ。五十嵐校長は「ひまわり焼きを継続して作り、地域住民が開発した『ひまわり茶』とセットで販売してみたい」と構想を膨らませていた。

(鳴崎宏樹)